

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	横浜ゴム平塚製造所新食堂棟計画	階数	地上4F
建設地	神奈川県平塚市追分1-1外5筆	構造	RC造
用途地域	工業専用地域、第一種住居地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	飲食店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2022年2月13日
敷地面積	1,618 m ²	作成者	株式会社安藤・間一級建築士事務所
建築面積	1,337 m ²	確認日	2022年2月14日
延床面積	3,499 m ²	確認日	株式会社安藤・間一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.8

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (230 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 78% (179 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 76% (175 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 76% (175 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		その他
総合 ・災害に強い建物、維持管理が容易な建物、使いやすく快適な建物、地域に開かれた建物、以上に配慮されている。		・特に無し。
Q1 室内環境 ・トップライト設置・内装材はF☆☆☆☆品を採用、その他VOCについても、放散量が少ない材料を全面的に採用・喫煙室設置無し、全館禁煙としている	Q2 サービス性能 ・食堂天井高3.6m以上・内装計画への取り組み・防汚性の高い建材の採用・掃除拭き設置等、維持管理用機能に配慮基準の1.25倍の耐震性を有する・主要内装仕上げ材の更新必要間隔は20年以上・給排水配管は上位3種がB以上、Eは不使用・節水型器具の採用、系統の分離、雑用水槽設置・耐震クラスA・階高3.9m以上・壁長さ比率0.19・ケブ/ルック配線を採用	Q3 室外環境(敷地内) ・サウステラス、ノースデッキ等、人が集まる溜まりの空間 ・地域交流イベントのメイン会場として利用 ・開放的な空間と内部空間を連続させた中央部分、テラス
LR1 エネルギー ・BEIm=0.72 ・クールビット、トップライト、ソーラーチムニーの採用	LR2 資源・マテリアル ・自動水栓に加え、節水型便器の採用・リサイクル材の活用・LGS下地を採用・有害物質を含まない防水工事のプライマーを採用・ノンフロン断熱材を採用	LR3 敷地外環境 ・LCCO ₂ 排出率=76%・光害対策ガイドラインのチェックリストを満たす、広告物照明無し・窓の個数を減らし、シミュレーションによりグレア低減効果の確認を行う

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される